

# 解決 トラブルシューティング

😊 今なら間に合う！ 😞 間に合わない？

(タキイ種苗開発部)

野菜は一つとして同じ生育をたどるものではありません。低温・高温、乾燥・過湿、曇天・日焼け、多肥・肥切れetc.、一度バランスを崩した野菜は、トラブルとなってその症状を現

します。そこから対応できることもあれば、もはや手遅れな場合もあります。このシリーズでは回復可能な事例はその対処例を、無理な事例は次回対策等を紹介するものです。

今号のテーマ

## ハクサイの不結球発生を回避する対策は!?

😊 対応可能な処理

😞 対応不可能

### ●ケース: 葉がいつまでも結球せずに開いたままになってしまった

対策



😊 対策の基本は生育を進めることです。

- ①ベタがけで温度を確保する。
- ②追肥や液肥などで生育を進める。
- ③乾燥気味なら灌水を行う。
- ④畝の表面が固まっていたら、中耕で表面を崩し根の呼吸を旺盛にする。

😞 葉数が不足していると外葉を束ねても玉はできません。外葉を束ねるのは玉ができた後の防寒のためです。



#### ◎原因

①**播種時期の遅れ**：播種時期が遅く、結球に必要な葉数が確保できていないことが原因です。ハクサイの生育適温は18〜21℃、結球適温は15〜18℃になります。播種時期が遅れると、結球期に必要な葉数や葉の大きさの確保が間に合わず、巻かなかったり結球不足になります。

②**移植時の活着不良・根傷み**：秋まきの育苗では、育苗日数15〜20日程度、本葉3〜4枚が基準です。これ以上の植え遅れは老化苗になりやすく、活着が遅れます。またハクサイは過



↑ 外葉形成期〜結球開始期。



↑ 1回目の追肥は、定植後14日以内、↑ マルチなどで温度を確保する。本葉が7〜8枚のときに行う。



湿に弱く、圃場の排水が悪いと根が傷み生育遅れで不結球の要因になります。

③**結球期の水分不足・肥効不足**：ハクサイは結球開始期に入ると急速に生育しますが、この時に水分不足や肥料不足を起こすと結球に必要な葉の枚数、大きさが確保できずに、結球不足の原因となります。

また、低温条件に早く遭遇すると、生育が十分に進まず葉数や大きさが確保できないので注意します。

#### ◎対処方法

**保温資材で温度確保**：生育初期の根張りやその後の地温を確保するためには、マルチ栽培が有効です。また、早めの低温で生育が進まないようであれば、不織布などのベタがけ資材の利用で温度を確保して、結球に必要な葉数や葉の大きさを促します。

#### ◎予防方法

①**播種適期を守る**：遅まき、遅植えに注意し品種の播種適期を守り、定植時期も遅れないようにしましょう。

②**若苗定植、保水・排水性確保**：育苗は乾燥・肥切れに注意し、若苗定植を心掛けます。定植時には根鉢にしっかりと水を含ませて、活着するまで圃場の適湿に注意します。また、圃場の過湿にならないよう、圃場周辺の明渠や高畝などで排水対策を図ります。

③**灌水管理・追肥管理**：追肥のタイミングは、1回目は定植後14日まで本葉7〜8枚の時、2回目は芯葉が立ち上がる時期を目安として、速効性の肥料を施します。追肥の時期に雨が少なくようであれば、肥料を効かせる灌水をします。

④**品種選択**：「きらぼし85」は生育初期から生育が旺盛で、低温結球性にすぐれ、比較的不結球になりにくい特性があります。



→ 「きらぼし85」。低温結球性にすぐれ、栽培適幅が広い！